

## 銘柄分析レポート：買い持ちするなら、どの銘柄か？

### 1. はじめに

株の税金は、株式譲渡益、配当とも、昨年まで 10% でした。

今年からは、10.147% になります。復興特別所得税が上乘せされるためです。

● 10.147% = 所得税 7% + 所得税 7% × 復興特別所得税 2.1% + 住民税 3%

問題は、来年からです。証券税制の軽減税率が廃止されるため、一気に 20.315% まで跳ね上がります。

● 20.315% = 所得税 15% + 所得税 15% × 復興特別所得税 2.1% + 住民税 5%

これにより、短期売買を繰り返す投資家は、TOPIX に対して、20.315% のハンディキャップを背負って戦うことになります。

新たに、日本版 ISA（少額投資非課税制度）が導入されるものの、一度売ってしまえば枠の再利用ができず、課税口座との損益通算もできません。

投資家としても「一度買った銘柄は、なるべく売らずに保有する」方向で考えざるを得ないでしょう。そうであれば「なるべく買い持ちできそうな銘柄」を選ぶ必要があります。

しかしながら、我が国の大企業は、トヨタ自動車を筆頭に、景気循環株がほとんどです。中小型株にしても、パイの拡大しない国内市場にて激しい競争を繰り広げているため、長期的な成長が難しくなっています。

いったい、どうすればいいのでしょうか。

#### ★企業がグロース株の地位を保てる確率（1980～2003年）

	全業種	ハイテク	ヘルスケア	生活必需品	一般消費財	金融
3年	51%	55%	57%	57%	55%	41%
5年	31%	35%	37%	45%	39%	23%
10年	12%	10%	19%	27%	16%	8%
15年	5%	4%	7%	18%	4%	2%
20年	2%	2%	4%	5%	1%	1%

出典：『ヘッジファンドの懲りない人たち』